



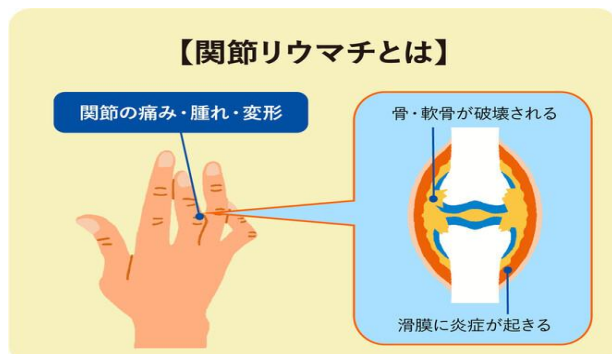
## 関節リウマチの痛みについて

関節リウマチの治療として生物学的製剤が登場してから、関節リウマチの痛みに対してのコントロールが出来るようになりました。



しかし、生物学的製剤を使用しても関節の腫れや痛みが続く方も多くいます。

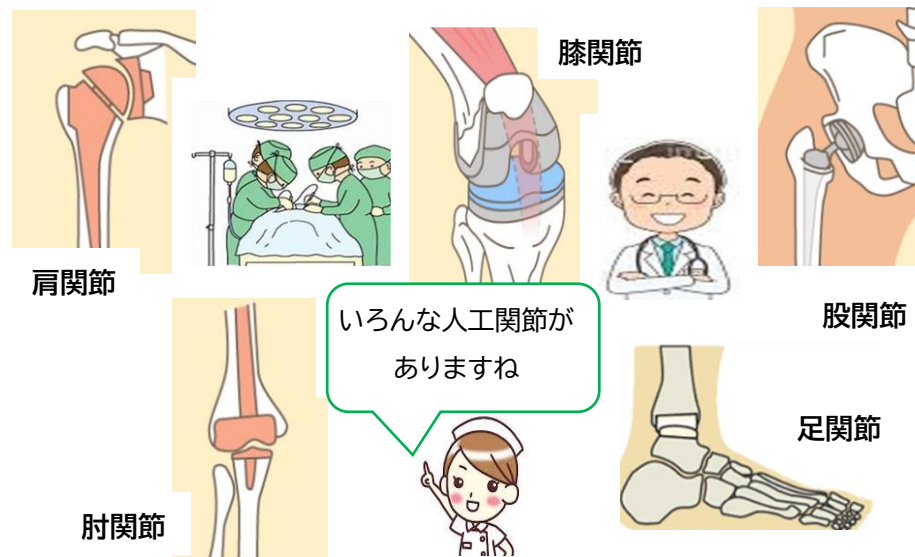
関節の痛みや腫れは、関節の中の滑膜が増殖していたり、関節が壊れている(関節破壊)ことが原因です。



関節破壊に対しては人工関節や関節形成術といった手術を行いますが、中には手術を希望しない方もいます。手術をしなければ関節の破壊が進み関節の変形が起こります。変形がひどくなると手術も出来ない状態になることもあります。

では痛みや腫れに対してどうしたらよいのでしょうか？

大きな関節や力が加わる関節は手術が望ましいです。肩・肘・股関節・膝・足首など、人工関節手術に関しては手術後の成績もよく人工関節の耐久年数も伸びています。



手術を希望しない方や、関節の変形が強くて手術が難しい方の痛みや腫れの対処として関節内注射があります。



注射には軟骨の栄養剤であるヒアルロン酸や、痛みに対して痛み止めのキシロカイン、時としてステロイド薬を使います。

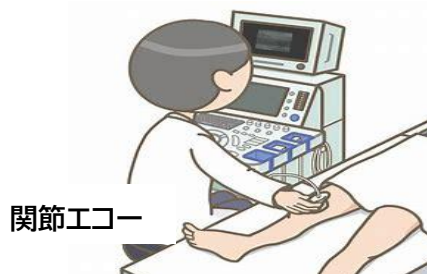
ステロイド薬は使いすぎると関節破壊が起きると言われたり、短い期間で何回も繰り返し使うと薬剤性の糖尿病になったり、持病に糖尿病があ

る方は糖尿病の状態が悪くなることもあります。その為慎重に使用することが大切です。

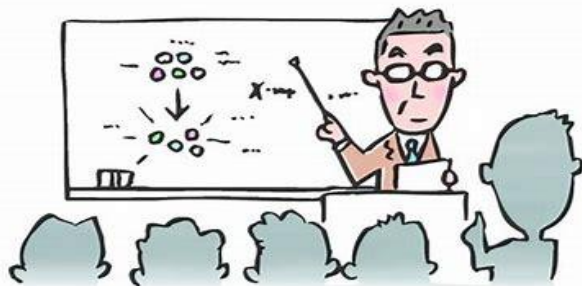


注射の効果はどのくらいあるのでしょうか？

手関節痛のある方に、ステロイド薬の注射を行った症例があります。注射の前後で関節エコー検査を行った結果では、炎症が起きていた部位が注射2週間後のエコー検査では炎症が消失、腫れも消えていて手の動きもよくなっていました。また全身の状態も良くなっていました。



ステロイド薬の使用方法は、注射の回数や間隔を1年に3～4回、または6週間隔にすると有用であると研究結果が発表されています。



～気をつけてほしいこと～

生物学的製剤を使用しているにもかかわらず痛みや腫れを訴える方の痛みをとる事ができました。関節内注射は関節の変形を止めることや、変形した関節を元に戻すことはできません。



### 編集後記

2009年9月に関節リウマチ患者さんの診療継続を希望し、県立奈良病院(現在の奈良県総合医療センター)から当院に赴任し早いもので13年が経過しました。

この期間中に関節痛・腫脹に対する治療方法として、ステロイドの関節内注射が極めて効果があることがわかりました。

もちろん個人による希望には左右されますが、手術をしなくて診察のみで継続できたことです。そしてこの3月で75歳の定年を迎え退職します。

当院は他に関節リウマチ診療をされる先生方が居られるのでよろしくお願いします。

皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。



2018年から発行していたリウマチ便り(現在のタイトルはらら letter)ですが、今回を持って終了させていただきます。関節リウマチの治療をされている皆様のお役に立てたでしょうか？

これからも病気と上手につきあって、自分らしい生活を過ごせるようお願いしています。



パンナより